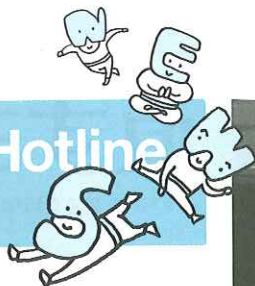


# Japan Ecology Hotline

September-October, 2011



## 06 「みんなのエネルギー・環境会議」が発足。 第一回会議が長野県で行われました。

<http://www.meec.jp/>

7月30日、長野県茅野市の諏訪東京理科大学で「第一回みんなのエネルギー・環境会議」が開催された。「みんなのエネルギー・環境会議」は、環境エネルギー政策研究所の飯田哲也所長、環境ジャーナリストの枝廣淳子さん、サッカー日本代表の岡田武史前監督、音楽プロデューサーの小林武史さんら10人が発起人。日本のエネルギーについて、様々な立場や考え方の人々がオープンに語り、議論する場をつくり、一人ひとりがエネルギーについて考えていこう、という試みだ。

今回の会議は4部構成で、狙いは原子力発電や再生可能エネルギーに関する論点の整理や共有化。会議の登壇者は「independent thinker」として参加する「政治的に利用しない、させない」「冷静かつ複眼的な思考で議論する」という3つの原則があるのみで、自由な意見を発

言できる。また、会場を訪れた一般の人でも、隣に座った人と語り合う時間が議論の間に設けられ、その結果をレスポンスシートに書いて提出。会場の意見も反映しつつ会議を進めるといふ、参加型のパネルディスカッションとなった。

第1部のテーマは「原子力」。福島事故を受け、パラダイムシフトの必要性にはほとんどの人が合意するも、情報の信頼性や安全規定など、どのようにして合意形成をつくっていくかが、主な論点となった。

第2部のテーマとなった、「再生可能エネルギー」については、太陽光発電や風力発電であれば、地域の人々が参加することができる、などといった再生可能エネルギーを進める意義について前向きな意見が多かったが、他の発電方法と比べた場合のコスト計算や環境負荷については意見が分れる場面もあった。

第3部では、「政策決定」について話し合われ、国民投票の是非、長期的なエネルギー政策における原発の位置づけ方、誹謗中傷でない合理性の議論の必要性など、さまざまな意見や問題提起がなされた。

第4部では、エネルギーと自分(生活者)との関連性をどのようにしていくか? といった「ライフスタイル」について話し合われ、自分たち



1.大学教授から政治家、民間シンクタンクなど、エネルギーの専門家を中心に総勢30人以上がディスカッションに参加した。  
2.菅直人総理大臣も、会議に参加し、「東日本大震災以来、原子力への考え方を変えた。原子力に依存しない社会を目指すべきだ」と強調した。3.会議に参加した人々も、セッションが終わるごとに、隣に座った人と議論。

自身が変わるだけでなく、地元議員に直接働きかけるなどして小さな成功事例を積み重ねていくこと、ネットワークを広げていく重要性などが確認された。

総括として発起人の一人、澤田哲生教授は「今後は、電力会社や、エネ庁、産業界の電力の需要家などが会議へ参加してくることを期待したい」、同じく発起人の枝廣さん

は、「こういった対話の場をあちこちでつくっていくことが、社会を変えていく」と、一人ひとりの行動と多くの人の対話へ参加を呼びかけた。

今回の議論を元に、今年中には「第二回みんなのエネルギー会議」が開催される予定だ。また、会議の様子はホームページからユーストリームでテーマごとの閲覧が可能となっている。



7月22日(金)に行われた「みんなのエネルギー・環境会議(MECC)」の発足記者会見の様子。